

景況調査（第105回 企業経営者の景気見通し）

三重県・愛知県主要業種の景気見通し

（2022年度上期実績見込み・2022年度下期見通し）

百五総合研究所では、半年ごとに三重県内及び愛知県内の主要業種の事業所の皆様に対し景気見通しのアンケート調査を実施し、結果をとりまとめています。

お忙しいなかご協力いただきました経営者の皆さまには厚く御礼申し上げます。

なお、2016年度上期より、愛知県分の調査結果につきましては、三重県分とは別にとりまとめています。

[目次]

調査の概要	1
I. 三重県	
調査結果の要旨	2
1. 業況判断	3
2. 売上高	6
3. 販売数量・在庫量	8
4. 販売価格・仕入価格	9
5. 採算・資金繰り	10
6. 設備投資	11
7. 雇用	15
8. 賞与	16
9. 賃金改定	17
10. 経営上の問題	18
II. 愛知県	
愛知県内の景気見通し	19
III. 特別調査	
①業況判断（四半期）について	24
②仕入れの状況について	24
③脱炭素化の取り組み状況等について	27
IV. 生の声	29

[調査の概要]

1. 調査対象：
 - ①三重県内の事業所 1,037 先 (回答 461 先/回答率 44.5%)
 - ②愛知県内の事業所 434 先 (回答 93 先/回答率 21.4%)
 - (合計調査対象数 1,471 先 (回答 554 先/回答率 37.7%))
2. 調査時期： 2022 年 7 月中旬～7 月下旬
3. 調査対象期間： 2022 年度上期 (22 年 4 月～9 月) 実績見込み (文中表記「今期」)
2022 年度下期 (22 年 10 月～23 年 3 月) 見通し (文中表記「来期」)
4. 調査方法： アンケート票送付及びwebアンケート
5. 回答状況

		三重県		愛知県		全回答	
		回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
全企業		461	100.0%	93	100.0%	554	100.0%
規模別	大・中堅企業(資本金1億円以上)	57	12.4%	12	12.9%	69	12.5%
	中小企業(資本金1億円未満+個人事業)	404	87.6%	81	87.1%	485	87.5%
業種別	製造業	180	39.0%	39	41.9%	219	39.5%
	食料品(飲料含む)	25	5.4%	4	4.3%	29	5.2%
	繊維	5	1.1%	1	1.1%	6	1.1%
	印刷	6	1.3%	2	2.2%	8	1.4%
	石油・化学	13	2.8%	1	1.1%	14	2.5%
	窯業・土石	14	3.0%	1	1.1%	15	2.7%
	一般機器	28	6.1%	6	6.5%	34	6.1%
	電気機器	22	4.8%	5	5.4%	27	4.9%
	輸送用機器	28	6.1%	10	10.8%	38	6.9%
	その他製造	39	8.5%	9	9.7%	48	8.7%
	非製造業	256	55.5%	54	58.1%	310	56.0%
	建設	65	14.1%	18	19.4%	83	15.0%
	不動産	9	2.0%	8	8.6%	17	3.1%
	卸売	31	6.7%	12	12.9%	43	7.8%
	小売	41	8.9%	8	8.6%	49	8.8%
	運輸・倉庫	30	6.5%	5	5.4%	35	6.3%
	観光・宿泊	28	6.1%	0	0.0%	28	5.1%
	サービス(旅行代理店、情報通信、飲食店含む)	52	11.3%	3	3.2%	55	9.9%
	地場産業	25	5.4%	-	-	25	4.5%
製材	8	1.7%	-	-	8	1.4%	
真珠養殖	1	0.2%	-	-	1	0.2%	
真珠加工販売	4	0.9%	-	-	4	0.7%	
銑鉄鑄物製造	1	0.2%	-	-	1	0.2%	
萬古焼製造	4	0.9%	-	-	4	0.7%	
萬古焼卸売	7	1.5%	-	-	7	1.3%	
地域別	北勢	188	40.8%	-	-	188	33.9%
	中勢	129	28.0%	-	-	129	23.3%
	南勢	74	16.1%	-	-	74	13.4%
	伊賀	40	8.7%	-	-	40	7.2%
	東紀州	30	6.5%	-	-	30	5.4%
	愛知県	-	-	93	100.0%	93	16.8%

6. その他

○本文中の「BSI」とは、ビジネス・サーベイ・インデックスの略称。本調査では、下記の式で算出している。本調査では、前年同期と比べた「上昇」「下降」の変化方向を問うている。

$$BSI = \frac{\text{上昇(増加・好転)事業所数} - \text{下降(減少・悪化)事業所数}}{\text{有効回答事業所数}} \times 100$$

○調査対象は「事業所」であるが本文及び図表中では「企業」と表記している。

○年次は西暦表記とし、本文及び図表中では年次を西暦下2桁で表記している。

【調査結果の要旨】

業況感はやや上昇、来期はほぼ横ばい。

【概況】

三重県内の企業の業況判断 BSI は、2022 年度上期は△3.3 となり、前回調査時点における見通し (+0.7) は下回ったものの、21 年度下期 (△7.5) よりマイナス幅は縮小し、緩やかに上昇した。22 年度下期は△5.2 となり、ほぼ横ばいの見通し。

業種別にみると、製造業は、今期 3 期ぶりのマイナスに転じ、来期はほぼ横ばいの見通しとなった。一方、非製造業は、今期 9 期ぶりのプラスに転じ、来期はほぼ横ばいの見通しとなった。

製造業では、今期、輸送用機器、窯業・土石、その他製造などが 2 桁マイナスとなった。自動車関連が中心となる輸送用機器は、完成車メーカーで、長引く半導体不足や物流の停滞、中国でのロックダウンなどサプライチェーンの混乱に伴う部材等の供給不足で生産が減少している影響を受け、今期大幅なマイナスとなった。来期は、輸送用機器は自動車生産の回復、一般機器は設備投資需要の回復を見込み上向くものの、製造業全体では、部品・原材料等の不足と価格高騰が続く懸念等から、ほぼ横ばいの見通し。

非製造業は、今期、コロナ感染拡大期においても行動制限がなかったことから、観光・宿泊は需要回復から業況判断 BSI が最大のプラス（地場産業除く）に、飲食サービスなどのサービスも 2 桁プラスとなり、来期もそれぞれプラス見通し。小売も今期マイナスながら改善傾向となった。

設備投資を実施する企業割合（投資額 500 万円以上）については、今期 45.7%とコロナ前水準を回復した。来期も 47.9%に上昇する見通しで、設備投資意欲の高まりがうかがえる。

人員の不足感は、高水準ながらもとくに製造業で弱まった。

最大の問題は仕入価格の高騰である。仕入価格 BSI は約 80 まで上昇し、「経営上の問題」では「原材料高」が 1 位となった。仕入価格上昇分の 70%以上を販売価格に転嫁できている企業の割合は、1 月時点の約 4 割から約 5 割に上昇し転嫁は進んでいる。しかし、仕入価格平均上昇率（1 年前比）25.0%に対し販売価格上昇率は 17.3%にとどまり、採算はやや悪化傾向にある。

BSI	判断	2021 年度 下期 (前期)	2022 年度 上期 (今期)	2022 年度 下期見通し (来期)
業況判断 BSI	今期マイナス幅やや縮小、来期はほぼ横ばい	△7.5	△ 3.3	△ 5.2
大・中堅企業	今期 0.0 に改善、来期は横ばい	△4.0	0.0	0.0
中小企業	今期マイナス幅やや縮小、来期はほぼ横ばい	△8.0	△ 3.7	△ 6.0
売上高 BSI	今期プラスに、来期はプラス幅やや縮小。	△0.5	8.3	2.8
販売数量 BSI	今期マイナス幅やや縮小、来期はほぼ横ばい。	△5.9	△ 0.4	△ 3.1
在庫量 BSI	今期プラスに転じ、来期ほぼ横ばい。	△1.3	6.1	5.1
販売価格 BSI	今期プラス幅拡大し 40 弱に、来期はほぼ横ばい	13.1	37.7	38.7
仕入価格 BSI	今期プラス幅拡大し約 80 に、来期はほぼ横ばい	62.4	80.6	80.3
採算 BSI	今期マイナス幅拡大、来期はほぼ横ばい。	△9.1	△ 15.4	△ 17.2
資金繰り BSI	今期ほぼ横ばい、来期はマイナス幅やや拡大	△3.2	△ 0.9	△ 4.0
設備過不足感	不足感ほぼ横ばい	10.2	9.9	—
設備投資実施割合	今期上昇し、コロナ前水準に	42.6%	45.7%	47.9%
雇用過不足感	不足感は高水準もやや弱まる	50.5	44.9	—

(※) 過不足感は「不足」－「過剰」。「不足」は「不足」＋「やや不足」の割合、「過剰」は「過剰」＋「やや過剰」の割合。

1. 業況判断 (自社の属する業種の景気)

業況判断BSIは今期マイナス幅やや縮小、来期はほぼ横ばい。

◆全企業

業況判断BSIは、2022年度上期(以下、今期)は $\Delta 3.3$ となり、今期見通し(+0.7)は下回ったものの、2021年度下期(以下、前期)($\Delta 7.5$)よりマイナス幅は縮小した。

2022年度下期(以下、来期)は $\Delta 5.2$ となり、ほぼ横ばいの見通し。

◆業種別 …製造業は、今期・来期ともマイナスに。非製造業は、今期・来期ともプラスに。

※ 今期BSIのプラス幅の大きい業種順に記載。

◇製造業 …今期($\Delta 12.9$)は3期ぶりマイナスに転じ、来期($\Delta 12.4$)はほぼ横ばい。

- 【石油・化学】 今期3期連続の2桁プラス。来期はプラス幅縮小。価格転嫁進み、売上高BSIは大幅プラス。顔料、化成品、ヘア製品、排水設備用薬品など好調。
- 【印刷】 今期プラスに転じるも、来期再びマイナス。来期は販売数量が減少。
- 【電気機器】 今期0.0に低下。来期はマイナスに。約7割の企業で仕入難。コロナ禍、海外のロックダウン、半導体不足等による部材不足、顧客の生産調整など影響。
- 【食料品】 今期マイナス幅は最小、来期はマイナス幅拡大。今期は外食など回復。来期は原材料価格高騰の影響懸念。
- 【一般機器】 今期1桁マイナスではほぼ横ばい、来期はマイナス幅やや縮小。自動車向けは減産の影響。産業機械、工作機械などは顧客の設備投資回復で受注増。
- 【その他製造】 今期マイナスに転じ、来期はマイナス幅拡大。原材料高、部材不足が影響。
- 【窯業・土石】 今期マイナスに転じ、来期はマイナス幅拡大。生コン、建設資材など売上減。
- 【輸送用機器】 今期大幅マイナスに転じ(前期+8.7→ $\Delta 42.9$)、来期はマイナス幅縮小($\Delta 7.1$)。部品供給不足による自動車減産の影響。来期は自動車生産回復の見込み。新規受注見込みなど。
- 【繊維】 今期大幅マイナスに、来期も大幅マイナス。

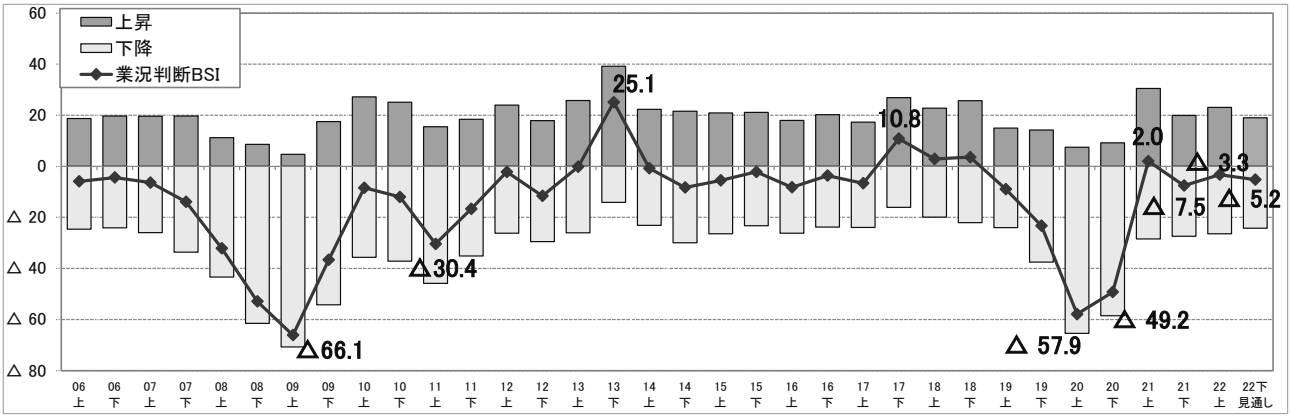
◇非製造業 …今期(+2.7)は9期ぶりプラスに転じ、来期(+1.6)はほぼ横ばい。

- 【観光・宿泊】 今期プラスに転じプラス幅は最大(+64.3、地場産業除く)。来期も大幅プラス。withコロナで外出需要回復。来期の予約数増加。団体宿泊予約がある企業、7-9月、10-12月の宿泊予約が前年比+35%見通しの企業も。
- 【サービス】 今期3期連続のプラス。来期も2桁プラス。飲食サービス、ホテルサービス、クレジットカード、ビルメンテナンス(清掃)、警備、建設サービス、情報通信等で堅調。
- 【卸売】 今期は0.0に改善。来期はマイナス。7割以上価格転嫁できている企業8割。
- 【建設】 今期マイナス幅縮小。来期はやや拡大。
- 【不動産】 今期マイナス幅縮小。来期は横ばい。
- 【小売】 今期マイナス幅縮小。来期は0.0に改善。7割以上価格転嫁できている企業8割弱。リバウンド消費(衣料品、食料品等)。コロナ前水準を回復(GS)。
- 【運輸・倉庫】 今期マイナス幅は拡大し非製造業で最大($\Delta 23.3$)。来期ほぼ横ばい。自動車関連など製造業停滞の影響。中国のロックダウンやウクライナ情勢等で物流停滞。

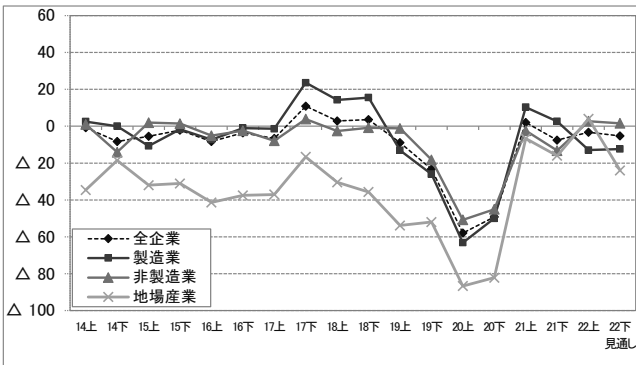
◇地場産業 …今期(+4.0)は17期ぶりプラス、来期($\Delta 24.0$)はマイナスに。

I. 三重県

■業況判断BSIの推移



■業況判断BSI（業種3区分別）



■業況判断BSI（業種別・企業規模別）の推移

		(前回調査時点)										
		18上	18下	19上	19下	20上	20下	21上	21下	22上 (見通し)	22下 (見通し)	
全企業		2.9	3.6	△ 8.9	△ 23.3	△ 57.9	△ 49.2	2.0	△ 7.5	0.7	△ 3.3	△ 5.2
規模別	大・中堅企業	14.7	6.1	△ 6.3	△ 23.8	△ 66.7	△ 47.2	35.3	△ 4.0	10.0	0.0	0.0
	中小企業	0.7	3.2	△ 9.3	△ 23.2	△ 56.6	△ 49.5	△ 2.3	△ 8.0	△ 0.6	△ 3.7	△ 6.0
業種別	製造業	14.3	15.5	△ 13.1	△ 26.0	△ 63.2	△ 50.0	10.3	2.6	13.1	△ 12.9	△ 12.4
	食料品	△ 7.7	△ 2.7	0.0	△ 24.1	△ 37.8	△ 40.0	△ 21.4	△ 18.5	11.1	△ 4.0	△ 12.0
	繊維	△ 11.1	11.1	△ 12.5	△ 50.0	△ 87.5	△ 75.0	62.5	△ 16.7	△ 16.7	△ 75.0	△ 50.0
	印刷	△ 42.9	△ 50.0	△ 10.0	△ 33.3	△ 62.5	△ 88.9	10.0	△ 14.3	△ 14.3	16.7	△ 16.7
	石油・化学	13.3	35.3	△ 14.3	△ 40.0	△ 64.7	△ 61.5	10.0	44.4	66.7	25.0	8.3
	窯業・土石	18.8	13.3	△ 7.1	△ 14.3	△ 57.1	△ 38.5	△ 9.1	10.0	10.0	△ 21.4	△ 28.6
	一般機器	50.0	△ 5.6	△ 40.0	△ 23.8	△ 64.0	△ 71.4	22.2	△ 5.6	16.7	△ 7.1	△ 3.6
	電気機器	12.5	7.7	△ 6.7	△ 11.8	△ 85.7	△ 37.5	7.1	6.7	20.0	0.0	△ 4.5
	輸送用機器	22.7	13.3	△ 23.3	△ 39.1	△ 81.5	△ 38.5	41.2	8.7	13.0	△ 42.9	△ 7.1
	その他製造	25.9	47.6	△ 10.6	△ 20.9	△ 62.5	△ 48.9	△ 6.3	10.5	7.9	△ 15.4	△ 23.1
	大・中堅企業	23.1	8.8	△ 3.1	△ 38.2	△ 74.2	△ 46.2	50.0	4.5	18.2	△ 11.5	△ 7.7
	中小企業	12.1	17.0	△ 15.2	△ 23.1	△ 61.0	△ 50.7	3.5	2.3	12.2	△ 13.2	△ 13.2
	非製造業	△ 2.6	△ 0.8	△ 1.2	△ 18.3	△ 50.8	△ 45.1	△ 2.4	△ 13.2	△ 3.8	2.7	1.6
	建設	5.1	3.5	1.2	△ 12.5	△ 23.0	△ 34.7	△ 11.1	△ 16.9	△ 12.3	△ 7.7	△ 12.3
	不動産	6.3	0.0	△ 6.7	△ 15.4	△ 54.5	△ 53.8	△ 44.4	△ 20.0	△ 10.0	△ 11.1	△ 11.1
卸売	3.1	10.3	△ 6.3	△ 18.5	△ 63.3	△ 56.0	△ 4.2	△ 7.7	0.0	0.0	△ 9.7	
小売	△ 20.6	△ 14.3	△ 2.9	△ 48.5	△ 56.1	△ 21.4	2.6	△ 48.6	△ 18.9	△ 17.1	0.0	
運輸・倉庫	△ 8.8	8.3	3.7	△ 24.1	△ 76.0	△ 73.3	3.0	△ 11.1	0.0	△ 23.3	△ 20.0	
観光・宿泊	△ 22.7	△ 13.6	21.4	10.0	△ 100.0	△ 78.3	9.1	△ 8.3	4.2	64.3	42.9	
サービス	3.8	△ 5.8	△ 8.7	△ 14.9	△ 40.7	△ 39.6	6.0	15.6	13.3	17.3	19.2	
大・中堅企業	5.6	3.1	△ 6.7	△ 3.6	△ 59.4	△ 48.1	22.2	△ 10.7	3.6	9.7	6.5	
中小企業	△ 3.9	△ 1.4	△ 0.5	△ 20.2	△ 49.6	△ 44.7	△ 5.4	△ 13.6	△ 4.9	1.8	0.9	
地場産業	△ 30.4	△ 35.7	△ 53.8	△ 52.0	△ 86.7	△ 82.1	△ 6.7	△ 16.0	△ 32.0	4.0	△ 24.0	
製材	△ 25.0	0.0	△ 66.7	△ 50.0	△ 57.1	△ 33.3	25.0	28.6	△ 42.9	12.5	△ 50.0	
真珠養殖	—	—	—	100.0	—	—	△ 100.0	—	—	100.0	100.0	
真珠加工販売	0.0	△ 60.0	△ 25.0	0.0	△ 100.0	△ 100.0	0.0	0.0	0.0	△ 25.0	△ 50.0	
銑鉄鋳物	33.3	50.0	0.0	△ 75.0	△ 100.0	△ 100.0	100.0	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0	0.0	
萬古焼製造	△ 40.0	△ 20.0	△ 60.0	△ 33.3	△ 100.0	△ 100.0	0.0	△ 40.0	△ 20.0	0.0	25.0	
萬古焼卸売	△ 83.3	△ 77.8	△ 75.0	△ 75.0	△ 88.9	△ 90.0	△ 36.4	△ 37.5	△ 37.5	14.3	△ 28.6	

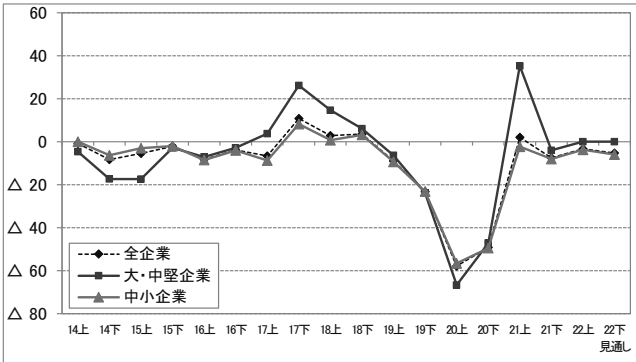
※地場産業と繊維、印刷、不動産はサンプル数が少ないため指数の振れに注意する。—は回答がなかったことを示す。

◆企業規模別 …今期・来期、大・中堅、中小ともに、製造業はマイナス、非製造業はプラス。

業況判断 BSI を企業規模別にみると、製造業では、今期は大・中堅企業 (△11.5)、中小企業 (△13.2) とともに2桁マイナスに転じ、来期は、大・中堅企業 (△7.7) がマイナス幅やや縮小、中小企業 (△13.2) が横ばいの見通しとなった。

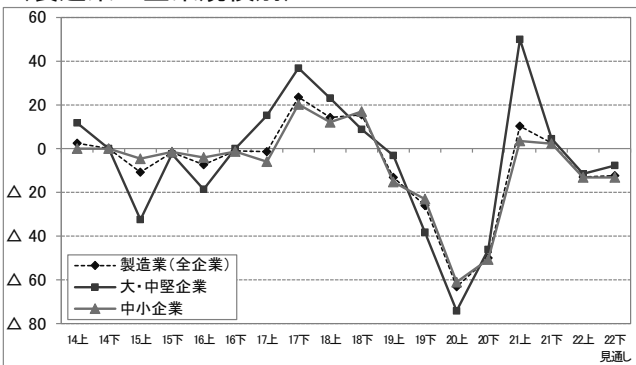
非製造業は、今期は大・中堅企業 (+9.7)、中小企業 (+1.8) とともにプラスに転じ、来期 (+6.5、+0.9) もプラスを維持する見通しとなった。

■業況判断 B S I (企業規模別)

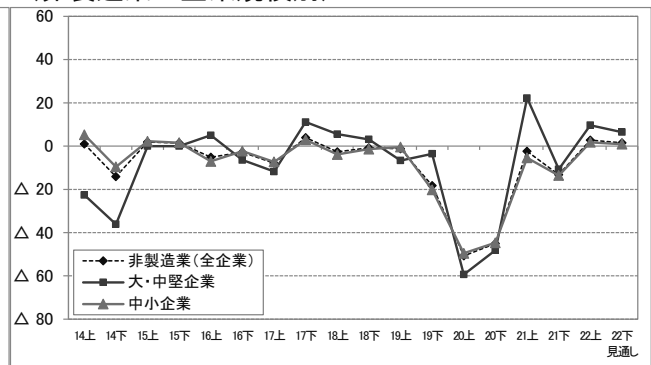


※左図のデータには、地場産業を含む

(製造業・企業規模別)



(非製造業・企業規模別)



◆地域別 …南勢地域は今期・来期ともプラス、その他地域はマイナス。

業況判断 BSI を地域別にみると、南勢地域は今期・来期ともプラス、他の地域は今期・来期ともマイナスとなった。南勢地域は、今期・来期とも最大のプラス(地場産業除く)となった観光・宿泊の割合が高い。製造業が6割を占める伊賀地域は、今期マイナス幅が最も大きくなった。北勢地域はマイナス幅が最も小さいが、今期・来期ともプラスとなった石油・化学やサービスの割合が高いことなどが要因。東紀州地域は今期・来期とも2桁マイナスで、建設や運輸・倉庫の影響が大きい。

■業況判断 B S I (地域別) の推移

	(前回調査時点)										
	18上	18下	19上	19下	20上	20下	21上	21下	22上 (見通し)	22上	22下 (見通し)
全地域	2.9	3.6	△ 8.9	△ 23.3	△ 57.9	△ 49.2	2.0	△ 7.5	0.7	△ 3.3	△ 5.2
北勢地域	7.5	8.4	△ 12.0	△ 33.3	△ 63.6	△ 55.8	4.7	△ 5.7	5.7	△ 0.5	△ 2.7
中勢地域	△ 1.6	2.7	△ 6.5	△ 15.9	△ 61.4	△ 42.0	15.5	△ 6.1	6.1	△ 7.0	△ 6.2
南勢地域	△ 1.5	△ 13.5	△ 4.9	△ 11.1	△ 66.2	△ 62.7	△ 16.7	△ 13.1	△ 4.9	16.2	2.7
伊賀地域	11.1	13.3	△ 8.1	△ 21.3	△ 40.4	△ 41.7	△ 5.0	0.0	△ 16.7	△ 28.2	△ 15.4
東紀州地域	△ 11.8	3.1	△ 6.7	△ 14.3	△ 17.6	△ 19.4	△ 11.1	△ 18.8	△ 18.8	△ 20.0	△ 23.3